

# 日本医師アマチュア無線連盟会報

## No.74

### 第38回 MARS 総会(久留米)に参加して

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

平成26年(2014年)5月31日(土曜日)17時より福岡県久留米市のハynesホテル久留米に於いて、第38回 MARS 総会が開催され、講演会、懇親会そして翌日のエクスカーシオンは全て素晴らしい内容で盛会裡に修了したことをご報告申し上げます。

今回の第38回 MARS 総会は JH6IBM 局石井文理先生の素晴らしい企画と事務手続き等の準備が立派に実行されて、しかもそれに加えて地方色豊かな総会の内容で、参加各局はとも感激し、久しぶりの eye-ball meeting を楽しませて頂きました。

総会当日は全国的に季節外れの猛暑になりました。小生は盛岡から新幹線経由で仙台空港から福岡直行便に乗り、12時過ぎに福岡空港に到着いたしました。道路交通事情等の詳しくないことから空港からリムジンバスで久留米を目指しました。JR 久留米駅なのか西鉄久留米駅なのか曖昧であったので、JH6IBM 局に携帯電話で確認して西鉄久留米駅の付近のホテル会場を確認して、ハynesホテルに到着したのは午後2時前でありました。

ともかくも空気が温か過ぎて風呂に入ってい

るような暑さであり、ホテルで一旦休憩して、MARS 総会に臨むことになりました。

総会は JH6IBM 局 石井文理先生の進行・司会で進められ、まず MARS 会長としての挨拶を小生が行い、ついで地元の JA6BMB 局佐藤元一先生から丁重な歓迎の言葉を頂きました。ついで、総会議長として、JH2QBB 局丸山先生が選出され、総会議事に入りました。

まず JL1BGP 局井上文正先生から庶務報告がなされ、会員構成等の動向が報告されました。現状では連絡のつく会員総数は94名との報告があり、次に平成25年度活動の中の MD ネットの現状については JH7QFA 局 渡辺孝志先生から3.5MHz の通信状況と7MHz の通信状況の報告を別紙資料を用いて報告されました。

MARS ニュースの編纂については、JF3JON 局田中憲児先生が今回の MARS 総会の記事を中心に MARS ニュースをなるべく早く発刊したいとのことで、なるべく早く原稿を送付して欲しいとのご要望が伝えられました。

また MARS アワードの件は JA1KXT 局相田先生から申し送りがあり、JL1BGP 局がアワ

ードの抽選局の決定や現状についての報告を行い、今年もアワードの抽選は懇親会にて行われ、今年度も携帯無線機を当選局一局に贈呈することが出来ました。

次いで JH3TCC 局 家田勝幸先生から MARS Home Page の現状の報告があり、比較的多くの方々に見られていることの現状が報告され、HP 更新の時期でもあり、会員からの意見を聞きたいとのご発言がありました。

これらの報告のあとに JL1BGP 局 井上先生から平成25年度決算報告ならびに監査報告がなされました。決算の報告は JL1BGP 局 井上文正先生から、監査報告は JH3GOB 局 稲見修先生と JA1FF 局 国府田守雄先生から報告がなされ、承認されました。

次いで議事へ移り、平成26年度事業計画が JA7AOM 局 及川から説明され、さらに平成26年度予算(案)が JL1BGP 局 から提案されて、それぞれ承認されました。

また役員改選の件は現在の役員構成で留任という形となり、引き続き現在の役員構成の原案が承認されました。

その他の事項として井上先生から JM1ZZM 局の運用ならびに QSL カードに関する実務的な検討が必要であるとのご意見があり、さらに MARS 会員であれば何とかなるが、カードの扱いに苦慮している旨の報告があり良い提案があれば意見が欲しい旨の要望があった。

また JH6IBM 局 石井文理先生からはメーリングリストを上手に用いて情報の共有化を図ることが必要であり、メーリングリストの利用についてはそのような方向が承認された。

講演会は地元の JH6IBM 局の推薦もあり、「佐賀バルーンフライトと APRS」という演題で JQ6ONP 局 亀山泰人氏と JE6WWZ 局 国友

繁歳氏の二名による熱気球競技とアマチュア無線の動向について述べられ、「バルーンフライト」のことは理解できたが理解しにくいところもありました。しかしこの競技は気球により上昇するメンバーと地上で様々な風速等の情報分析や地表での移動状況を把握するための APRS が重要な役割を呈することを理解することが出来ました。大災害時の支援救助や避難経路についての早急な情報伝達等に今後活用することを検討する必要があると思われる、アマチュア無線の果たすべき役割が拡大する方向にあることに気づかされました。



懇親会は久しぶりの会合で楽しいひと時となりました。それぞれの会員が現状の報告をして頂き、あっと云う間に楽しい時間が過ぎました。



翌日朝食後8時45分にバスでエクスカーションに参加出発致しました。筑後平野を流れる筑後川は大陸的で巨大な流れであり、東北の北上川等とは趣を異にすることがわかりました。引

き潮と満潮の時の変化を目で見ることが出来ました。また筑後川下流には現存する国内唯一の昇開式可動橋を見学し、当時汽車が走るときのみこの昇開橋が下降してその役割を果たしたとのことで、常に大きな船が通れるような設計になっておりました。



ついでこの筑後川の北岸にある幕末の時代の遺跡佐賀藩三重津海軍所跡の見学と日本赤十字社の創設者でもあった佐野常民記念館を訪問することになりました。「幕末から明治期における飛躍的な日本の近代化」を象徴する産業遺産は合わせて世界遺産として登録することが提案されているそうです。東北出身の小生には初めての訪問体験でしたが、幕末当時の時代における江戸時代の各藩のアジア情勢への捉え方や、当時のアヘン戦争等の情勢の中で九州各藩が、海軍を現実に装備していた

ことに佐賀藩の歴史の一端を学ぶことが出来てとても有意義でありました。

昼食は河川船の中でのゆったりとした気分で川魚料理を堪能致しました。素晴らしい中々味わえない魚料理は珍しいものであり、久しぶりで贅沢な時間を頂きました。しかもゆっくりと河川を船で移動しながらの楽しい昼食の時間はとても貴重な体験となりました。



川岸に楽しかった昼食の時間を記念して、写真をつとつ、AEF 局 BGP 局は近くの名所を訪ねられ、JR 久留米駅で関西地区の会員は新幹線で我々は福岡空港への帰路につき、素晴らしい第38回 MARS 総会を修了することが出来ましたことを報告することが出来て有難いと思っております。素晴らしい総会を運営された JH6IBM 局 石井文理先生及び九州地域の御支援頂いた各局に重ねて感謝しつつ、つたない総会報告に替えさせていただきます。



## MARS 会員都道府県別分類

**J A 1 17局**

東京都 JA1FF JA1BOW JF1SXY  
JK1AIN JL1BGP JP1HIS

JR9FQO

神奈川県 JH1IAA JE1TNL  
埼玉県 JR1CDJ JR1JIC JL1LRJ  
茨城県 JI1VAH  
群馬県 JA1KXT JR1SJD  
千葉県 JM1BIX  
栃木県 JO1RTV  
山梨県 なし

**J A 2 8局**

愛知県 JA2DQH JH2QBB JR2AXV  
JG2XEJ  
静岡県 JA2BIV JE2ANG JO2DBR  
岐阜県 JA2MTE  
三重県 なし

**J A 3 28局**

京都府 JA3ASU JH3SQM JH3SQN  
JR3HFS JR3JJQ JF3BIE  
JF3ITN JF3NXJ  
大阪府 JA3BQT JA3LDH JA3WKF  
JH3AEF JR3LJI JE3RZA  
JF3EKP JF3MTM JJ3MIG  
JL3SIK JO3VKD  
滋賀県 JF3PMG  
兵庫県 JA3XED JH3GOB  
奈良県 なし  
和歌山県 JH3TCC JF3JON JI3CIN  
JJ3KUL JM3BCQ JN3ASW

**J A 4 4局**

岡山県 JE4EWM(exJA5LDZ) JG4JFW  
広島県 JH4DPL JH4UYB  
鳥取県 なし  
島根県 なし  
山口県 なし

**J A 5 3局**

香川県 なし  
徳島県 JA5GPJ JA5POS  
愛媛県 なし  
高知県 JH5KAJ

**J A 6 6局**

福岡県 JA6BMB JA6RQK JH6IBM  
JE6IUM JG6DAO  
大分県 なし  
熊本県 なし  
宮崎県 なし  
鹿児島県 なし  
佐賀県 JR6EZJ  
長崎県 なし  
沖縄県 なし

**J A 7 20局**

青森県 JA7VAB  
秋田県 JE7MMC  
岩手県 JA7AOM JA7PPA JH7IIR  
JH7OLB JH7XGQ JE7EDF  
JG7CRJ  
山形県 なし  
宮城県 JA7DOR JA7EVM JA7WTH  
JH7CAI JH7EQW JH7QFA  
JR7CAD JP7DMV  
福島県 JA7FHH JE7GFM JP7FSO

**J A 8 3局**

JA8JDQ JA8RSJ JI8MVL

**J A 9 2局**

富山県 なし  
石川県 JK1QLR  
福井県 JE9RWF

**J A 0 3局**

新潟県 JH0LME JR0NQU JR0QWW  
長野県 なし

\_\_\_\_\_は他エリアからの移動局

**計94局** (2014年8月現在)

# 第38回MARS 久留米総会

平成26年5月31日(土)17:00~18:00

ハイネスホテル久留米(久留米市天神町一丁目6)にて

開会・司会進行 JH6IBM 石井文理(福岡県)

No.175 JA2FJF 浅井俊行殿 (classB, All HF, WAC) 2013.4.30.発行

会長挨拶 JA7AOM 及川忠人(岩手県)

No.176 JL8KWJ 山本政彦殿 (classB) 2013.5.20.発行

歓迎の辞 JA6BMB 佐藤元一(福岡県)

No.177 JH1AAN 中村輝夫殿 (classB, All 7MHz SSB) 2014.3.5.発行

議長選出

2) MARS 医学 アワードⅡ 発行状況

JH2QBQ 丸山暢氏(愛知県)を選出

今年度も申請なし。

3) MARS 医学 アワード 会計

報告事項

収入の部 前年度からの繰越 2,418 円

平成25年度庶務報告 JL1BGP 井上文正(東京都)

MARS AWD 申請料 2,400 円

合計(A) 4,818 円

会員数94名(平成26年3月31日現在)

支出の部 AWD 送料 620 円

昨年度年間賞送料 1,160 円

合計(B) 1,780 円

平成25年度事業報告

MDネット 3.5MHz JA1KXT 相田信男(群馬県)代理 渡辺孝志

A-B=3,028 円 ⇒ 次年度に繰り越し

8ページ 資料1

なお、MARS 医学 アワードを新たに印刷し

MDネット 7MHz JH7QFA 渡辺孝志(宮城県)

直した代金 69,510 円、および、年間賞トランシーバー購入費 23,760 円は、本会計から支払われている。

9ページ 資料2

MARS NEWS JF3JON 田中憲児(和歌山県)

2013 年度MARS医学アワード年間賞受賞者として JL8KWJ 山本政彦氏(札幌)が選出された。

代理 井上 文正

MARS HOMEPAGE JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)

73号を発行した。総会后速やかに次号を発行したいので、ご投稿をお願いします。

MARS AWARD JA1KXT 相田信男 代理 井上文正

多数の方に関連していただいているが、HP更新の時期ですので、皆様のご意見をお伺いしたい。

1) MARS 医学 アワード 発行状況

次の局から申請があり、発行した。年間賞対象局。

## 平成25年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
繰越金	1,738,300	1,738,300
会費収入	500,000	542,000
その他(預金利息)	100	194
収入合計(A)	2,238,400	2,280,494

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	200,000	138,600
MARSアワード	30,000	22,800
ホームページ管理費	120,000	120,000
送料通信費	30,000	2,224
総会助成金	100,000	100,000
事務用品費	5,000	315
事務員謝礼金	60,000	60,000
コールブック印刷	0	107,100
慶弔費	20,000	0
雑費	5,000	0
支出合計(B)	570,000	551,039

(A)-(B)=次年度繰越額	1,668,400	1,729,455
内訳 郵便貯金		1,724,512
現金		4,943

## 会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを確認しました。

平成26年5月31日 監事 JA1FF 国府田 守雄 監事 JH3GOB 稲見 修

## 議事

平成26年度事業計画案 JA7AOM 及川 忠人 承認

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| 1)MD ネットの充実を図る              | 6)MARS 新入会員の増加活動を推進する                    |
| 2)MARS NEWS の充実を図る          | 7)その他                                    |
| 3)MARS アワードを継続する            | 次回(第39回)総会は医学会総会が開催されるため京都で4月11日に開催予定です。 |
| 4)MARS ホームページの充実を図る         |  |
| 5)災害時の MARS Network の検討を進める |  |

平成26年度予算案 JL1BGP 井上文正 承認

## 収入の部

繰越金	1,729,455
会費収入	500,000
その他(預金利息)	100
合計(A)	2,229,555

## 支出の部

MARSニュース	150,000
MARSアワード	30,000
ホームページ管理費	120,000
送料・通信費	30,000
総会助成金	100,000
事務用品費	5,000
事務員謝礼金	60,000
慶弔費	20,000
雑費	5,000
合計(B)	520,000

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,709,555

役員改選について JA7AOM 及川忠人  
現在の役員構成で留任させていただきたい  
承認

役職	コールサイン	氏名
名誉会長	JA1FF	国府田 守雄
名誉会長	JH3AEF	東條 純一
会長	JA7AOM	及川 忠人
副会長	JL1BGP	井上 文正
副会長	JA1KXT	相田 信男
理事	JP1HIS	奈良 圭之助
理事	JA3ASU	狭山 信矩
理事	JH3TCC	家田 勝幸
理事	JF3JON	田中 憲児
理事	JH6IBM	石井 文理
理事	JH7QFA	渡辺 孝志
理事	JH7OLB	岩動 孝
理事	JH0LME	姉崎 静記
監事	JA1FF	国府田 守雄
監事	JH3GOB	稲見 修

閉会

講演会 18:00～18:40

## 『佐賀バルーンフライトとAPRS』

講師: 亀山 泰人 様 JQ6ONP

国友 繁歳 様 JE6WWZ

記念写真撮影 18:45～18:55

懇親会 19:00～21:00

進行係 JH6IBM 石井文理

挨拶と乾杯 JH3SQM 郷原憲一(京都府)

二次会 21:00～22:00

5階「PRUNIER(プルニエ)」にて

## 資料1

## MARS・MD-net on 80m band (2013.4.~2014.5.)

0600~0630JST / 3.562 あるいは 3.565 MHz

(しばしば開始 10~15 分前に KXT,VAH がラグチュー pse BK)

2013 年 4 月 3 日	10	「少し弱い」が全国可	2013 年 11 月 6 日	8	
2013 年 4 月 10 日	10	7,0 に桜の蕾/3-7×	2013 年 11 月 13 日	10	vyQRN:0603 止まる
2013 年 4 月 17 日	10	⇒週末 MARS 総会	2013 年 11 月 20 日	8	
2013 年 4 月 24 日	11	3-7× EQW 参加	2013 年 11 月 27 日	9	
2013 年 5 月 1 日	10		2013 年 12 月 4 日	8	
2013 年 5 月 8 日	10	3-7 厳しい	2013 年 12 月 11 日	9	
2013 年 5 月 15 日	10	BGP/QRV 開始	2013 年 12 月 18 日	10	
2013 年 5 月 22 日	11		2013 年 12 月 25 日	9	
2010 年 5 月 29 日	12		2014 年 1 月 1 日	6	(二波同時運用 hi)
2013 年 6 月 5 日	10	QRN+QSB 変な condx	2014 年 1 月 8 日	9	
2013 年 6 月 12 日	12		2014 年 1 月 15 日	8	
2013 年 6 月 19 日	7	3-7 相当きつい	2014 年 1 月 22 日	8	
2013 年 6 月 26 日	10		2014 年 1 月 29 日	8	
2013 年 7 月 3 日	12		2014 年 2 月 5 日	10	
2013 年 7 月 10 日	9		2014 年 2 月 12 日	7	
2013 年 7 月 17 日	8		2014 年 2 月 19 日	5	先週末 118 年ぶり大雪
2013 年 7 月 24 日	10		2014 年 2 月 26 日	9	
2013 年 7 月 31 日	7		2014 年 3 月 5 日	9	
2013 年 8 月 7 日	7		2014 年 3 月 12 日	7	
2013 年 8 月 14 日	7	(記録的猛暑続く)	2014 年 3 月 19 日	8	
2013 年 8 月 21 日	7	JL1LRJ/0	2014 年 3 月 26 日	9	
2013 年 8 月 28 日	8	JH3GOB/3	2014 年 4 月 2 日	10	
2013 年 9 月 4 日	8		2014 年 4 月 9 日	8	
2013 年 9 月 11 日	8	wid 強力放送局	2014 年 4 月 16 日	8	
2013 年 9 月 18 日	8		2014 年 4 月 23 日	8	
2013 年 9 月 25 日	8	3-7〇(回復!!)	2014 年 4 月 30 日	5	JA1KXT:QRT
2013 年 10 月 2 日	11	JR7CAD:35 年ぶり	2014 年 5 月 7 日	7	
2013 年 10 月 9 日	10	JA7WTH 参加	2014 年 5 月 14 日	8	
2013 年 10 月 16 日	6		2014 年 5 月 21 日	8	
2013 年 10 月 23 日	8		2014 年 5 月 28 日	8	
2013 年 10 月 30 日	10	FB Condx			

\* 常連局: JA7AOM, JH7QFA, JP7FSO, (JH7EQW), JI1VAH, JR1SJD JA1KXT,  
JR1CDJ, JL1LRJ, (JL1BGP), JH3GOB, JH3AEF, JH0LME(順不同)

\* 年間を通じて、ネットのもてない日はなかった。

しかし暖かい時期には3-7が QSO 不可という状況だった。



資料2	局 名	コンタクト回数
MD-net 7M(40m)ロールコール	JA1FF	31
毎週 6:30~7:00 7.060MHz	JA1BOW	1
2013.4.25~2014.5.28	JA1KXT	3
参加局数 23局	JR1CDJ	42
MARS 7M キーステーション	JR1SJD	6
JH7QFA (渡辺孝志)	JL1BGP	18
	JL1LRJ	19
QFAが全くコンタクト出来なかったのは12	JI1VAH	50
月4日、25日の2回だけで昨年よりは朝の時	JH2QBQ	22
間帯お空のコンディションは良かった様で、ま	JH3AEF	44
たこの期間も JH6IBM 局とはつながり FB で	JH3GOB	22
した。	JI3CIN	8
常時 JH3AEF、JA7AOM、JH6IBM の	JF3JON	1
各局にローカルスキップの際にはお願いして	JH6IBM	39
おります。	JA7AOM	36
毎回 QBQ FF AEF AOM の各局に	JA7WTH	3
はトップにとって頂いております。	JH7EQW	1
JP7FSO 高瀬先生 いつもモービルから	JH7QFA	51
のコンタクト、FB でした。	JR7CAD	28
今年はニューカマーの局長さんが少しず	JP7DMV	4
つでもネットに参加、これからもお空が賑やか	JP7FSO	37
になる事を期待しております。	JH0LME	1
	JR0NQU	1

### 久留米総会参加局

国府田 守雄	JA1FF	家田 勝幸	JH3TCC
天谷 龍夫	JI1VAH	佐藤 元一	JA6BMB
井上 文正	JL1BGP	石井 文理	JH6IBM
丸山 暢	JH2QBQ	及川 忠人	JA7AOM
成子	JH2UDD	渡辺 孝志	JH7QFA
狭山 信矩	JA3ASU		
東條 純一	JH3AEF	講演者	
稲見 修	JH3GOB	国友 繁歳	JE6WWZ
郷原 憲一	JH3SQM	亀山 康人	JQ6ONP

# 氷点下 40℃ 極寒のイエローナイフ

JR1CDJ 大久保 嘉明 (埼玉県)

年寄りの冷や水そのものだが、正月休みを利用して、今年もオーロラを見に行ってきた。JR1SJD 局が行かれた暖かいグアムとは対極で、カナダは寒さを通り越して凍える毎日だった。

今回申し込んだツアーは JTB 添乗員付き 7 日間の

「神秘のオーロラと壮大な大自然に感動する旅 イエローナイフとナイアガラ 7」

12 月 29 日、13:30 成田に着いたら今年の男性添乗員とばったり。「えーっ、また行くんですかー」といささかあきれ顔。

17:10 エアカナダで成田を出発。日付変更線を超えて、カルガリー経由で同日 15 時イエローナイフ (Yellowknife) 空港に着いた。日の入りが 3 時過ぎなのでまだ明るく、晴で気温 マイナス 33℃・・・と言っても実は順調に着いたわけではなかった。

## トランク行方不明

国際線からカナダ国内線への乗り換えに際し、カルガリー (Calgary) 空港で受け取るはずの荷物、どういうわけかカミさんのトランクだけが出てこない。先ほどからハンカチを結んだ同じような赤っぽいトランクが荷台をぐるぐる廻っているの、さては間違われたか？ 見ると同じイエローナイフ行きのタグが付いているので添乗員と相談して、代わりにこれを持ってカナダ国内便 (小型のボンバルディア機) に搭乗。そしてイエローナイフでは急ぎ荷物受け取り場へ。ドキドキしながら待っていると、いやー出てきました、本物のカミさんのトランクが！！ それに

してもハンカチを結びながらも間違えるとは・・・

## 市内全域停電

宿泊するエクスプローラホテル (Explorer Hotel) はイエローナイフ市内の端っこにあり空港から一番近い。バス 10 分ほどで 15:30 に到着。ロビーで添乗員 (今回は女性) から諸々の注意・説明を受けた。今回のツアー客は 18 名、内 10 名が男性。去年と違って中高年が多い。やっぱりというか小生が最高齢。チェックイン後それぞれの部屋へ移動。ところがカードキーを使って部屋 (418) のドアを開けた途端、一度パッと点いた部屋の照明が消えた。アリヤ、何か操作を間違えたか？ でも廊下の照明も消えて非常灯だけが点灯。どうやら停電らしい。階段を使ってロビーに下りてみたが、やはり非常灯のみ。フロントでも肩をすくめるだけ。まあそのうち点くだろうと思い、部屋のドアを開け放って廊下からのわずかの光の下、貸与された分厚い防寒具 (ダウンパーカー) を試着。21:00 オーロラ鑑賞地・オーロラビレッジへの出発までにはしばし時間がある。もともと夕食が付いていないので街に買い出しに出かけることにした。

マイナス 33℃ という外気温で顔が痛い。街灯や信号機、非常灯は点いているが、ビルの窓は暗い。一般照明と道路信号は電気系統が別になっているらしい。ホテルだけの停電と思いきや、市内全域だ。停電では食料品店や目当ての寿司店は営業不能だ。結局食料にありつけず、仕方なくホテルへ逆戻り。暗い部屋で寝転んでいたら 18 時頃になってやっと照明が点いた。備え付けのポットでお湯を沸かし、コ

ーヒーを飲んでいたら、添乗員から「街の店が開いてますよー」と連絡が入った。

加工品や生鮮野菜などを販売しているスーパーマーケット「Exta Foods」で、イエローナイフ滞在中の食料を買い込んでホテルに戻り、夕食を済ませた。

### オーロラ鑑賞へ

21:00 バスでホテルを出発、20km くらい離れたオーロラ鑑賞地・オーロラビレッジ「Aurora Village」(北緯 62° 31' 59", 西経 114° 12' 04")に 30 分で到着。すでに淡いオーロラが出ている・・・ラッキー！

ここは街の人工灯から逃れた何もない原野の一角で、オーロラレイク湖畔にオーロラ鑑賞専用施設が設けられている。昨年自由に利用できたダイニングホールは有料のレストランに変わっていた。ガイドによる施設の案内があり、今夜の拠点として第 4 ティーピーに案内された。



写真1 ティーピー

「ティーパー」とはカナダ北部に住む先住民が住居としていたテントで、ここオーロラビレッジには、凍結したオーロラレイク湖畔に 11 棟が設置されている。薪ストーブで暖房され、暖かい飲み物が用意されていた。暖房されてはいるが、

テント内の温度はなおマイナス 20℃くらい。それでも外よりは暖かいので、撮影でかじかんた手をストーブにかざしてやっと人心地を取り戻した。

三脚にカメラをセットし、シャッターを押すだけにしてティーパーの外へ。だんだん強くなってきたオーロラを鑑賞(写真 2, 3)。新月なのであたりは真っ暗。近くでオーロラを撮影している人の支障になるので、外でカメラを操作する際は大っぴらに明るく照らすことは禁止されている。厚手の手袋をしているとカメラのシャッターを押せない。素手か外科用の薄い手袋で手探り操作。



写真2 オーロラ



写真3 オーロラ

### 撮影条件

マニュアルモードで焦点距離を無限大に、

感度をASA 400～800、絞りは開放か1メモリ絞り、露出時間は15～20秒にセットして、10秒のセルフタイマーを使って撮影した。また現地に臨場した証拠写真を撮ろうと、オーロラをバックに立って15秒くらい不動の姿勢を取った。去年は満月で明るかったのでどちらを向いても顔が写せたが、今回は真っ暗闇なので明るいティーピー側を向いて立ち撮影した(写真4)。



写真4 オーロラ

近くの立木に取り付けられた温度計ではこの日(12月29日)マイナス37℃(写真5)。シャッターを押す右手はたちまち寒さで感覚がなくなる。鼻カバーから上に息が漏れるとメガネが曇って視界ゼロに。マツゲにもびっしり霜が付く。ティーピーに戻ってストーブでメガネを暖めて氷を溶かす。その際カメラにはカバーを掛けて



写真5 マイナス37℃

ティーピー内の湿気でレンズと液晶に結露しないよう配慮しなければならなかった。

もう一つ大事なことは、電池の保温だ。これほどの低温は昭和基地でも経験しなかった。南極大陸の調査旅行でも氷点下35℃が最低だった。電池が低温に晒されると機能不全になり、シャッターが下りなかったり、自動焦点が合わなくなったり、ポケットカメラはオフにしてもレンズが引っ込まなくなる、などのトラブルに見舞われた。そのため予備の電池を懷で暖めておき、動作が鈍くなったら随時電池を入れ替えるようにした。

翌30日00:50 オーロラ鑑賞を終えて01:00 オーロラビレッジを立ち、イエローナイフのホテルに帰った。03:00 就寝。

### イエローナイフ市内観光

2日目の30日午前中は自由行動。午後は14:00から昨年と同じイエローナイフ市内観光。「ノースウェスト準州議事堂」「プリンスオブウェールズ博物館」凍結した巨大な湖「グレートスレイブ湖上」のアイスロード」「オールドタウン」「ダウンタウン」などを見学した。市内の電光掲示板はマイナス36℃を掲示していた。オーロラビレッジからの情報では、この冬一番の氷点下43℃と。

当地の車が結構スピードを出しているので驚いていたが、マイナス20℃以下になると路面とタイヤ間に水が介在しなくなるため全くスリップしないそうである。またこの低温ではバッテリーが機能しなくなるため、駐車中はバッテリーやエンジンオイルを保温するために全ての駐車場にコンセントが設置されて電源を供給している(写真6)。



写真6 保温用コンセント

### オーロラ鑑賞 2 日目

極北ディナーの夕食を済ませて、21:00 オーロラビレッジへ向かった。快晴で先の温度計の針はマイナス 39℃を指していた。そこそこのオーロラ出現。ティーピーに出入りする参加者に対し、凍傷にくれぐれも気をつけるよう、ガイドは繰り返しアドバイスしていた。確かに耳たぶやほっぺた、鼻の先、手指が凍傷になりやすい。

帰る間際に比較的強いオーロラが出たが、カーテン状や色が付いて乱舞するような強烈なものは見られない。31 日 01:30 ホテルに帰り、02:45 就寝。

### 犬ぞりとスノーモービル体験

3 日目の大晦日、この日は終日自由行動。8 時半に起きて朝食と市内散策。分厚い防寒具を着ているので体幹は寒くないが、顔と両手が凍える。イエローナイフ街路上電光掲示板は、早々と **Happy New Year** と気温マイナス 37℃を交互に掲示していた。

午後からはまたオーロラビレッジに行って、オプションで申し込んでおいた「犬ぞり搭乗」と「スノーモービル運転」を体験した。ティーピー

横の温度計はさらに下がって何とマイナス 40℃(写真 7)。ガイドの話では「風を受ける犬ぞりやスノーモービルの体感温度はマイナス 50℃や 80℃になるので、しっかりした防寒装備を付けていない人はその場でお断りしています」とのことだった。



写真7 マイナス40℃

お客 4 人と操縦者を乗せた箱形そりは、10 頭の犬に引かれて森の中のトレイルを疾走した(写真 8)。とは言え気温が低すぎて滑りが悪そう。精悍な犬達はシベリアンハスキーやエスキモー犬など混血種とのこと。一度上り坂で止まってしまったときは犬も必死で、かわいそうな気がした。また下りでは相当なスピードになるので犬に追突するのでは、とあらぬ心配も。トレイル 1 周 20 分間くらいの搭乗体験だった。



写真8 犬ぞり



次は凍結したオーロラレイク湖上を走り回るスノーモービル運転。別に運転免許の有無は問われなかった・・・スノーモービルは一人乗りで、前輪はスキー板、後輪はキャタピラという構造。右グリップにスロットルレバーが付いている。グリップを手前に回すタイプではない。左グリップは操作器具無し。ブレーキもない。貸与されたフルフェースのヘルメットに持参のスキー用ゴーグルを付けた。簡単に操縦法を教えてもらってイザ搭乗。親指でスロットルレバーを押さえると爆音を轟かせて疾駆した。傾斜面に乗り上げると転倒する恐れがあるので慎重に運転。面白くて寒さも吹き飛んでしまった。まあカミさん飛ばすこと・・・

20 分間ほどのスノーモービル運転を満足し終えた後、次に氷の滑り台を楽しんだ。子供プールみたいな 2 人乗りの滑り具を引きずって 2 階くらいの高さまで階段をよじ登り、出だし急斜面の J カーブ状に作られた氷の溝状滑走路を滑り降りる 100 メートルほどの滑り台だ。年寄り二人、防寒具で顔の上半分しか見えないのいいことに、恥ずかしげもなく滑って楽しんだ。

すでに暗くなった 16:30 オーロラビレッジを発ってホテルへ戻り、もう一度食材を買い込んで夕食を済ませた。結局今回もレストランに行かず仕舞いだった。

### 3 日目最後のオーロラ鑑賞

21:00 ホテルを出て最後のオーロラビレッジ通い。今夜は新年のカウントダウンで花火を打ち上げるので、準備中のオーロラレイク湖上は立ち入り禁止になっている。

すでにオーロラが出ているがそう強くはない。でも 3 日間快晴でオーロラが出っぱなしだった

ので、今年出直した甲斐があったというものだ。湖畔のティーピー前でレイク上に出たオーロラをバックに自分たちを写し込んだりした。相変わらず猛烈に凍える。例の温度計の針は相変わらず氷点下 40℃を指していた。

そして 00:00、オーロラレイク湖上の花火が次々と打ち上げられ、観光客全員とスタッフ一同で[2014 年元旦]を祝った。

### 北米寒波

これで今回のオーロラ鑑賞の旅は終わったが、オーロラはまだしも、何と言っても厳しい寒さの方が印象に残った。1回撮影する度にティーピーに戻って暖を取らざるを得ないほどだった。去年はマイナス 15～20℃くらいだったので撮影にあまり苦労しなかったように思う。

元日チェックアウト時、ホテルフロントのディスプレイでは、イエローナイフの気温は氷点下 41℃まで下がっていることを標示していた(写真 9)。この極寒は北極圏から南下した北米寒波の始まりだったと見え、この後ナイアガラフォールズを廻って帰国後、ナイアガラ瀑布や五大湖が凍り付いたというニュースが流れていた。

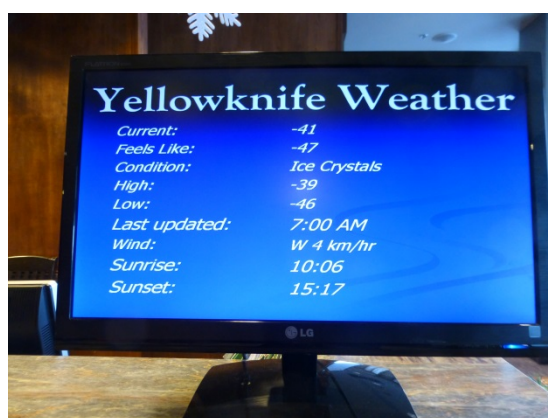


写真9 ホテルフロント

# 最近当局が取得したアワード

## JHOLME 姉崎 静記(新潟県)

小生が開局したのは満36歳になった1978年11月であり、目的はラジオ少年の頃からの夢であったDXQSOとDXのアワードハンティングでした。

幸運な事に開局翌年の1979年は“サイクル21”のピークの年であり、ローカルのOMからこの時期には28MHZ(10m)ならば、10ワットの低出力でDXが可能であると教わり、GPと10ワットSSBでDXハンティングを開始しました。

この設備でも何とかDXのカードが集まるようになり、1981年12月には小生にとってDXアワード第一号のWACを取得しました。

その後、本格的にDXに取り組みたくなりまして、上級ライセンスを取得し、1981年にはローカルからパンザマストを建て、貰い、その上に6エレのトライバンダーを載せて、10ワットの14MSSBを主体にDXハンティングを開始しましたが、これは低出力でどこまでDXが出来るかを試してみる事にありました(DXの世界ではQRP運用と言えますが・・・)。

夢中になってDXに熱を入れていましたが、次第にSSNが低下して来ましてSSBでのQSOは難しくなりましたので、100ワットにQROしてCWQSOをメインに行いました。

この時点の小生は30代後半から40代前半であり、地元病院の外科に勤務していましたので、それこそ“夜打ち朝駆け”でDXハンティングに励みました。

1988年5月には待望のDXCCアワードを手出来ましたが、小生のDXスタイルはニューエンティティを一途に追い回すのではなく、

その時に聞こえている局とQSOするタイプですので、CFMしたエンティティは280です。

このアワードでは、バンド、モード別に mixed, phone, CW, 40, 30, 20, 15, 10m と Millennium(西暦2000年記念)の9種類を取得しましたが、80mが完成すれば待望の5バンドDXCCが完成となります。

現在このバンドに熱を入れていますが、開ける時間が短く、しかもビッグガンが相手ですので、中々の難関です。

その他、現在までに取得した主なるアワードはWAC(CW), WAZ, WAS, IOTA, WAVKCA, ADXA, WAP, WPX, OHA, AKA, MLA( Maple Leaf Award), NDA(Nine Dragons Award)等です。

7年程前に長年住み慣れた家から、少し離れた郊外に家を新築移転しましたが、それまでの家は住宅密集地にありましたので、大きなアンテナの設置も出来ず、TVI・BCIの心配からQROも出来ませんでした。

新しい環境に移転したのを切掛けに念願の電動式クランクアップタワーを揚げる事にしまして、2009年6月にJH3AEF先生御推奨のFTI社から、同社の製品の一つであるFDX-416JPM(16MH)を設置して貰いました。

アンテナはマルチバンドでDXが楽しめる様にミニマルチ社の7バンド(7, 10, 14, 18, 21, 24, 28MHZ)にQRV出来ますT33jrH-WARC-E2と3.5MHZにはクリエートのCD78jr-Vを揚げて貰いました。

リグは従来から使用していますFT1000MP

に加えてFT-2000Dを新規調達しました。

## 住宅新装後に取得したアワード

### 1) DLD100 (2012-9取得)



図1 DLD100

ドイツ版のJCCアワードですが、日本と異なりシングルバンドで完成しねばならず、更に100枚以上のカードをドイツの本部に郵送して承認を得ねばなりませんので、大変に手数と時間が掛りました。

写真の様に中世ヨーロッパの王室の紋章を思わせるデザインで飾られた非常にFBなアワードです。

ドイツのJCCにあたるDOKは、ドイツ国内に約740あるとの事です、ハムのアクティビティの高い地域は首都圏に限られており、取得に30年近くを要しました。

### 2) DUF-4 (2012-11取得)

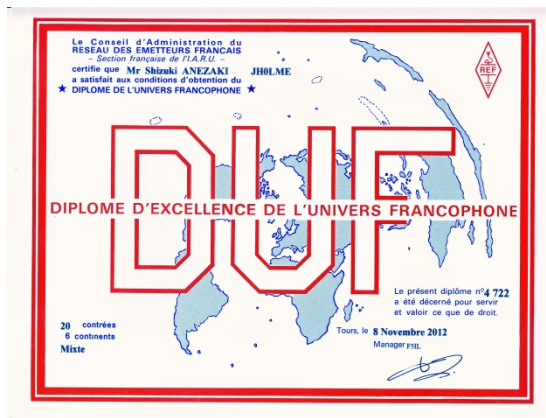


図2 DUF

第二次大戦前のフランスは、世界中に自国の領土を有していましたので、現在の6大陸にあるこれらの地域から規約に従ってカードを収集して完成するものです。

DUF-1、2、3と獲得したエンティティ数に応じて順次に申請しねばなりません、最後のDUF-4の完成には南米大陸とのQSOが鬼門です。

南米には仏領ギアナ(FY)が唯一つあるのみですが、日本からは非常に交信しにくい地域であり、小生はDXコンテストの時に漸く交信して完成しましたが、これも30年近くを要しました。

兎にも角にも、外国のアワードは非常に良く出来て居り、残りのあと一つがどうしても取れないと言うのが多い様です。

### 3) Diamond DXCC Challenge (2012-11取得)

ARRLの期間限定アワードの一つですが、2012年はDXCCが開始されてから75年になりますので、これを記念したアワードです。

75年前の1937年に始まった当時のDXCCの総エンティティ数は231でしたが、現在は340も有ります。





図3 Diamond DXCC

現在のエンティティを75年前の231に焼き直して、2012年の一年間でこの中の100エンティティと交信するものです。

アマチュア無線雑誌“CQ”にその解説と当時の世界地図に231エンティティが記したものが記載してありましたので、これを頼りにQSOを進めました。

この年の1月1日から、このアワードの取得を目指して毎日運用を開始しましたが、10月末になりまして、何とか100エンティティとQSO出来まして、アワードを獲得出来ました。

幸運な事にこの年には、HK0NA, VP6T, 7O6T 6O0CW 等の超珍エンティティからの国際的なDXペディションが多くありまして、これらも当時のエンティティに含まれていましたので、何とか間に合いました。

このアワードが始まりました75年のアマチュア無線局は、前貧弱な設備で、何の情報もない状態で運用して、カードを取得して申請しねばならなかったのですから、当時のDXCCの完成が、如何に難しかったか、改めて実感出来ました。

戦前の日本では故 J2JJ 局と故 J5CC 局の2名がDXCCのメンバーになっておられますが、この当時 J5CC 局は東京帝国大学医学部の学

生でしたが、その後残念ながら第二次大戦で戦死されました。

#### 4) DXCC Challenge Award (2013-3取得)



図4 DXCC Challenge Award

現在のDXCCのエンティティは340ありまして、使用を認められています周波数は1.9 MHzから50MHzまでの10バンドです。

この10バンドで340エンティティとQSOすれば $340 \times 10 = 3400$ ポイントとなりますが、1000ポイント以上を獲得したハムに与えられるアワードです。

多くのバンドで、数多くのエンティティとQSOしなければ取得出来ず、5バンドDXCCでも500ポイントですから、WARCバンドを含めてアクティブに活躍する必要のあるアワードです。

このアワードが制定されてから、ARRLにDXCCのエンドースメントを行いますとクレ

ジットスリップにその数が記載されていますので、これを見ながら励みました。

2013年2月にARRLに申請しまして3月に到着しましたが、開局以来30数年を要しました。

殆どのアワードは紙製ですが、これはズッシリと思い立派な楯であり、早速シャックに飾りました。

現在チャレンジしていますアワードは、5バンドDXCCですが、80mが未だ大分残っていますので、この冬が勝負になりそうです。

もう一つはアメリカのJCCにあたる“USAカウンティ500”ですが、このアワードはMARSの総会が水戸市で開催されました昭和57年にMARS会員と一緒に故JA1KF先生のシャックを訪問した時に拝見させて頂いたものです。

大判の厚紙製で、多色刷りのアワードで、周辺がアメリカ50州の州旗で囲ってある非常に

FBなものであり、一目見るなり欲しくなるものです。

広大なアメリカでのカウンティは現在3500近く在るとの事ですが、日本からは南部、中西部とのQSOが困難であり、異なる500カウンティからカードを取得するのは並大抵ではありません。

アメリカ主催のコンテストの時に頑張っていますが、カードが中々来ない等もありまして、当分掛りそうですが、ユックリと楽しみながら獲得を目指しています。

小生のDXCC未獲得エンティティは、残り50近くもありますが、小生の設備ではJH3AEF、JA3LDH、JH4UYB 局の様にDXCCオーナーロール#1等は夢中の夢に過ぎませんが、これからもマルチバンドで細々とアワードハンティングに精を出して行きたいと思っています。

## 日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に37年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

### 1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(平成27年は4月11日に京都において開催予定)

### 2) 毎水曜日の朝、3.562MHz(05:30~06:30) 及び 7.060MHz(06:30~07:00)付近でローコール(MD ネット)を行っている。

### 3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。

### 4) MARS 医学アワードおよびMARS 医学アワードⅡの発行。

### 5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

### 6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>

(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電 話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail [fumimasa@cb3.so-net.ne.jp](mailto:fumimasa@cb3.so-net.ne.jp)

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

# 入院手術と入院中の脳梗塞

JI3CIN 仲井間 憲要(和歌山県)

1936年7月4日生まれの私は2013年の誕生日で喜寿を迎えた。7月6日土曜日近所の中華料理店で家内と長男夫婦と次女と孫6人長男の子供達4人(男2名女の子2名)と次女の子供2人(男女1人づつ)11人で祝って貰った。おいしい料理とビールと紹興酒で杯を重ねた。大きな丸いテーブルを囲んで楽しいお祝いの宴を楽しませて貰った。

約一週間過ぎた頃、ふと昔からずーっと考えていたことが思い出された。祖父憲興ぢいさんは、昭和17年頃59歳で亡くなった。父憲正は食道癌で亡くなった。69歳の時であった。なんとなく自分は79歳まで生きておられるとそして79歳の誕生日を無事に越せば89歳90歳と90を超えて居れると思ったことがあった。

喜寿を祝って貰った次の週2年半ぶりに色々と健康診断を行って見ようと思った。先ずは一番かんたんな大便検査から始めた。誕生日から一週間経った7月10日朝一番の便から検査資料を採取して検査機関に提出した。血液検査をはじめ、毎日行っている患者さんの検査結果は必ず診察室のテーブルに提示されていたが検査結果を示す自分の検査報告書が何時も見当らない。何の症状も無かったため焦りもなく3週が過ぎた。7月31日検査資料の提出が為されていないのではないかと心配になって資料の提出が行はれたかどうかを確かめた。確かに資料は提出して居たことがわかった。遅れていて明日には検査結果は届くだろうと思った、が検査結果はすでに届いていた。私の

前に提示されることなく事務方に渡っていた。検査はヒトヘモ陽性、ここで不安と緊張が走った。早速、DR Ieda に電話で相談した。次の週の月曜日正午に内視鏡で診てもらう事になった。

月曜日9時半より腸の残渣を洗い流すため診察の合間に約2リットルの下剤を飲んだ。その後診察をしながらトイレへ何回も駆け込んだ。

正午から肛門からファイバースコープを挿入して検査が始まった。腹壁が厚く、否腹部の皮下脂肪が厚く可なりご苦労を掛けた。検査は約1時間で終わった。結果は上行結腸の肝臓曲(フレクスラヘパティカ)の下方12~3センチ下方(オラル側)にもくもくと出来てきた腫瘤(腫瘍)が映し出されていた。「腸切だな!」と言われた。上手くいけばヘミスコレクミーで済むと思った。(ステージ2~1で有ろうといわれた)。「オペは何処です?」「医大で」と決めた。仕事場戻ると電話で予約申し込み完了、[4日後の(7月12日金曜日午後2時)に和歌山医科大学消化器外科で診察をうけるよう]に指示された。早急な予約に感謝した。

7月12日金曜日午後1時には和歌山医大の総合受付を終えて消化器外科の待合室にいた。各診療科の受付を事務局から来たピンク色の制服を着た職員が診察券と保険証の提示を求め此の科のうけつけを完了する。予約時間が大幅に遅れて先程の受付譲に聞いて見たがノレンに腕押し状態であった。考えるに受付嬢は受付業務だけを黙々と熟なしているに過ぎな

かった。

女性の看護師に呼ばれて診察室に案内された。「お久しぶりですね」と声をかけられた。消化器外科主任教授山上裕機先生が笑顔で迎えてくれた。出来物はステージ2乃至1で有ろう、腹腔鏡でもオペが出来そうであるからと「腹腔鏡の名手で腹腔鏡を担当してもらっている助教授の堀田司先生にお願いするから」と堀田先生を紹介された。早速診察を受け、手術日を9月9日(月曜日)と設定された。そして8月31日が土曜日9月1日が日曜日のため入院の予定は8月26日から8月30日までにベッドが空いたら前日に連絡するので直ちに入院する事とし其れまでオペの為に必要な検査や内視鏡検査を行う事になる。その日のうちに血液検査心電図胸部レントゲン等出来る検査から始められた。

注腸検査やMRI検査、造影剤血管内注射によるレントゲン検査、これらの検査は検査日を決めて行うことになった。検査日には、午前10時に家を出て帰宅は午後6時頃と為った(交通事情もあってである)。手術の為の詳しい検査が終わる頃、8月21日に電話が入った。8月22日正午までに来院入院するようにとの連絡である。いよいよ入院である。

8月22日午前11時半頃に家を出た。12時前には医大消化器外科で受付を終えた。病室のある病棟に行く前に循環器内科と歯科と麻酔科で診察を受けてから再び外科外来前で待っているように言われた。正午5分前に病棟看護師が迎えに来た。その看護師に付き添われて病室に入った。ベッドから紀三井寺とその雄大な山が大きな窓に広がっての大パノラマで有った。始めは4つベッドがある4人部屋で有った。私自身イビキをかくので同室の皆様に迷惑

かけるのではないかと恐れた。私のまえ(トイメン)の方は術後2〜3日目の方で時々咳の発作に見舞われた。その度に悲鳴を上げていた。また、からだを動かして体位を変換するたびにちいさく唸ってた。夜9時を過ぎて消灯時間となり皆眠りに入った。左のベッドの方は断続的に、しかし時々大きく激しい鼾をかいていた。左斜めのベッドの方は鼾の途中で寝言を繰り返していた。まだわたしのいびきの方が可愛いなと思って眠りに付いた。

8月23日入院2日目、二泊三日の外泊を許可を申し出た(8月23日(金曜日)24日(土曜日)25日(日曜日))が断られて一泊二日の許可が許された。金曜日昼から帰宅して金曜日一泊土曜日に病院に帰ってくる様にとのこと土曜日も日曜日も何一つ注射も処置も無かった、一日中画像の悪い見難い有料テレビ(一枚千円のカードを購入して高すぎる視聴料)でテレビを見ていた。私は長期の療養では無いので入院が長なくて済むであろうと我慢した。

「病室のテレビに付いて」は術後出来るだけ横に為らず座位を保つか歩く様に指示を受けたがかなりの時間ベッドの上で過ごした。この様な時には横に為ると、直ぐテレビの電源を入れる。すると画面は悪く昭和30年代頃に作られたテレビかと思った。貸しテレビと思って業者を呼んでくれるように看護師に伝えとこれは備え付けだと言う、病院の所有物かと聞くとそうだという、病院の施設の人に連絡してくれと頼むと自分で言えという1日カード2枚が必要で1枚千円で1日2千円が必要だ。有料で金を取るならもっと見やすいテレビでなければならない、天下の和歌山医大がこんなことで利益を増やして居れば情けないと思った。何百人もの入院患者さん達も私と同じ思いをして居るのであろう。

入院案内の為のテレビであればそれでよいであろう。退院後良く考えればテレビの問題ではなく中継電波の問題ではないか？と気が付いた。ならば受信ブースターをパワーアップして各階各病棟にブースターを設置すればよいのではないか！と思った。

さて、OPE当日、午前5時半起床、今まで通りであった。歯を磨き顔を洗って本日のオペに備えた。8時に病棟看護師に伴われてOPE室に入った。

右方向2番目か、3番目のOPE室に案内された。中にはグリーンのOPE着を着て腕を組んで手薬煉を引いたDrが4人ジッと此方を見つめていた。手術器具介助のやや恰幅の良い女性看護師が一人手術器具を整えていた。すぐに麻酔医が我が左手、前腕に静脈確保のための特注針、輸液が設置された。続いて右下にしてTH5(胸椎)の辺りで硬膜外留置カテーテルの施術を始めた麻酔医に協力する意味で右背部が痛い、左肩甲骨の真中が痛いと報告した。その後、仰臥位に為った後の記憶が無い。この硬膜外カテーテルのお陰で術後4日目まで手術創の痛みは、殆ど感じることは無かった。仰臥位に為った後の記憶が無い。気が付くと病室のベットに移される所だった。時間は12時40分前後だったと覚えている。「まだ13時にはなっていない」と思ったことをおもいだした。

次に目が覚めたのは、午前1時半か2時頃であった。裏急後重、肛門部が今にも内容を放出しそうな感覚に唸り声を上げた様な気がして目覚めた。枕元のベルを押した。早速若い男性の看護師が駆けつけてくれてベットの上にゴム様の大きい敷物を敷いてオムツをセットしてくれた。これで思い切って排便せよとの事、寝てでは排便は出来ないので起こして呉れる様

に頼んだが、起き上がることを禁止されて居ると、寝たままで、排便するようにと命ぜられた。2〜30分して大量の液体の多い便を排出した。その後朝までに2〜3回大量の大便を排出した。若い男性の看護師が一生懸命に介護してくれた。若い看護師に深く感謝する。思えば、排便時に右に左に体位を変換両足を突っ張って腰を上げて体を捻って汚物の処理を受けたが手術創の痛みは無かった。これは硬膜外の持続点滴麻酔のお陰と有りがたく思った。古いメモで昭和41年7月1日〜9月30日まで、麻酔科のトレーニングを受けた事を思い出した。第一外科に岡田浪速先生が昭和38年か39年に助教授として赴任された、胸部外科特に心臓外科を開設する為で、血液体外循環装置も購入し態勢は整っていた。気管内挿管による全身麻酔が必要となり、当時第一外科の講師をされていた上山英明先生が麻酔科を当時第一外科に在籍していた井沢先生(のちに岡山に新しく出来た私立の医科大学 川崎医科大学の麻酔科の教授として赴任された)と(故)西本憲生さん(同級生)と大田又夫先生と4人で創設された。そのため第一外科に在籍している医局員は特別にトレーニングを受けて良いとされ、参加した。当時のメモを見ると昭和40年7月1日から9月30日まで麻酔科でお世話になって居た。その頃、既に硬膜外持続麻酔(細いビニールチューブを留置して癌末期の患者の疼痛を取り去ることを目的とした)の研究と治療が始められていた。この治療のため手技、薬剤の選定ビニールチューブの太さやその長さなど研究はコツコツと始められていた。さて、術後2日目で座位を許され3日目からリハビリテーションの為の歩行訓練を強いられた。痛みは無かった。硬膜外持続麻酔は続けられ術後5日目か6

日目で細いビニールチューブ抜去して硬膜外持続麻酔は終了した。

毎朝、午前6時ごろ体温測定脈拍測定で起こされる。その後点滴注射のための為左腕に、失敗すれば右腕に針が刺される。幸いな事に血管痛のある薬剤は無かった。点滴注射は朝夕に行う、途中で血管外へ漏れたり詰まったりしたら何回でも遣り直しが行はれる。出来る限り点滴が止まらない様に体を動かさないように努力しているが夜間睡眠時にトラブルが起ると注射のやり直しで辛い。しかし夜中に注射をしなければならなくなった看護師も辛い、暗い眠たいで在ろうと思う。暗くても困らないように凄く明るいライトとを用意して早く終われるように何回も突っ突かれて痛くないように協力した。体を動かしたり体をひねる時の創部痛を軽くする為コスタールバンドを取り寄せて創部を圧迫固定した。

さて、手術創は心窩部に一箇所、臍の右に一箇所、右下腹部に一箇所内視鏡の挿入口のとしての手術痕があり、右上腹部に約7~8センチの手術痕がある。ここからヘミスコレクトミーした大腸と支配している(血管リンパ管を含めた)大部分の腸間膜切除して腹腔外へ摘出したのであろう。この手術創をホッチキスの様なクリップで閉創されていた。手術創の一番上のクリップから一筋の血痕をみた。その創部の右側に創に平行に腫瘍が出来た。少し発赤し、やや熱感、少しの痛み、リハビリテーションの担当者、歩け歩けと手術後もリハビリで虐めるから右上腹部が腫れて痛くなったと冗談を言った。検温時に38度台に上昇、感染を疑った。早速抗生剤の点滴が始まった。血液検査で白血球増多がなくCRPの上昇も無くCT検査MRI検査を受けた。その結果、腹腔内への交通枝

は無く手術創を閉じたホッチキス様のクリップを除去して縫合創を開放し血腫を排出してペンローズドレーンを挿入してナイロン糸で創部を粗に縫合した。ドレーンから創開放部からの血液の混ざった体液(ゼクレート)の排出を見た。熱も痛みも取れた。抗生剤は服用に変わった。開放創からゼクレートが染み出してガーゼに付いたその量が減った。手術創は次第に閉鎖していくであろうといわれた。

手術後8日目9月17日(術後7日目は休日)に主治医に「明日より何時でも退院して良い」と退院許可が出た。迎えに来てくれる家人と相談しますと申し上げた。明後日の19日(木曜日)かその次の日の20日(金曜日)に退院させて貰う積もりでいた。

その夜午後7時頃午後5時ごろ届けられた夕食を食べようとベットより腰を浮かせた。丁度見回りに来ていた看護師に何をするのですかと聞かれた。食前の手洗い、孫たちに食前の手洗いを励行している私は必ず食前の手洗いをしていると告げたが「分らない」と言う。呂律が回って居ないのか?と問うと「そうだ」という。「手を握れ」と言うので手を握ったが「手の力が弱い握力が弱い」といわれた。その10分まえに創部痛のために処方されていたロキソニン1錠とミオナール1錠を服用していた。そのための握力の低下かと思った。取あえず横に為った。

気が付いたのは暦が替わった午前0時半か午前1時半ごろで頭部CT検査や頭部MRI検査を受けていた。脳外科の先生が右大腿部の大腿動脈にカテーテルを挿入して右脳の血行を止めている血栓を取り除く為の手術を施行していた、が途中で血栓が消えて亡くなっているといわれた模様。入院中で脳梗塞直後からの血栓を溶かす薬剤(tPA)の点滴治療が功を奏

したものと思はれる。ラッキイであった。「自宅での発病であれば重い傷害を残すか悪ければ、存命出来なかったであろう！」といわれた。

発病時には、意識は無く左上肢に力は無くダラリとして左上肢に動きは無かったそうであったと聞いた。9月18日水曜日朝目覚めたら点滴の瓶が今までより幾つも増えていて絶対安静を命じられた。昨日脳梗塞の発病があったと聞かされた。先に記した様に昨夜の検査室のことが思い出された。脳血栓融解剤が可なり早く効果を表して約5時間後の検査の時には意識が回復していたのであったのであろうと今は考えている。

翌朝気分も意識もすっきりと目覚めた。手も足も動くし、だるさも無く悪い症状は何一つなく先生方の良い治療のお陰と感謝した。唯ひとつ視野の中に左上方に赤い明るい丸い円形の像が二つ見えていた、その丸い円形の像は警光灯のような明るさで電球の様な明るい光が視野に入ると増強されてれていた。一応、主治医と脳外科のドクターには報告したが返事は無かった。余り気にしない様にしていたが3週間を過ぎていつの間にか明るくて赤い円の像は消えていた。脳梗塞発病から二週が過ぎる頃、漸く脳外科の主治医から退院許可が出た。退院後3～5週間リハビリテーション病院にて入院治療を受けることを条件に！ 9月30日に退院する事になった。9月30日に退院、10月1日リハビリテーション病院に入院した。退院時及び入院時の病名は脳梗塞、高次脳機能障害特に左空間認識障害といわれた。一人での歩行禁止(普通の道路)自動車の運転禁止を告げられた。

10月1日リハビリテーション病院に入院した。転院したリハビリ病院の病室は12帖前後の広

い個室でトイレとシャワールームが別々に完備されていて建物の東南に位置した一角で東の窓は大きく見晴らしも良い大きな個室であった。東側の大きな窓から和歌山駅北側の屋根が重なって見えた。西側に電車の線路が見えていたが電車の騒音は聞こえなかった。窓は厚い一枚ガラスでお部屋自体機密性が高くエアコンが効いて25度に保たれていた。朝夕の気温の変化も感じられず、前線の通過で窓に窓を打つ雨風の音もカーテンで認識出来なかった。入院中は何より食事が楽しみで漸く食欲が湧いてきた。前の病院では腸の切除手術の後で粥食に薄味の野菜を良く煮たものが中心で粥の好きでない私は食べる気がせず殆ど手をつけなかった。其処に脳梗塞で引き続き淡白な粥食となった。朝食は何処の病院でも6枚切一枚のパンと牛乳1合と決まっているらしい。マーガリン一欠片と一袋のイチゴジャムが添えられて、マーガリンとジャムには手を付けずパンと牛乳の朝食を頂いた。退院して約3ヶ月になるが食パン一枚と牛乳の朝食も最近ではOKである。昼食夕食の銀舍利は生き返る思いであった。副食も塩味が効いて夜間の間食はなくなった。前の病院では夜中にバナナやリンゴやお握り野菜ジュースなど密かに空腹の足しにしていた。一方リハビリでは歩行訓練、階段上昇下降、トレッドミル(30分を5分に負けて貰って)その他、両下肢の挙上など、次いでリハビリの主たるものは脳トレが本筋で、色々の図形の暗記、形状の変化の理解、話し言葉の記憶、数字の暗記、アットランダムな数字の中から同じものを選出しテックをかけたり脳トレと脳機能のテストを兼ねたトレーニングを行った。トレーニングの開始時間は区区(マチマチ)で トレーナーの都合で時間は決められていた。外来患者も多く予定を



遣り繰りしていたのであろう。土曜日日曜日はリハビリはお休みと決め付けていたが、リハビリに休日は無いといわれた。元気に成ったから退院させて欲しいと、又何時家に帰してくれるのかと事ある毎に看護師に言い続けた。入院から四週間足らずで退院させて貰ったが矢張り家に帰っても歩行訓練を行うように！と。

9月26日正午退院、診療所では8月22日以来自分に勤めている病院の協力も頂き自分の診察時間を除いた時間を調整して、午前中の診察翌日は午後の診察、と診療所の機能を維持してくれた我が長男で整形外科の専門医のドクターが頑張ってくれた。その間、勤務先での担当の診察、手術、当直、土曜日日曜日の日直当直を熟してであった。帰宅時には診療を頑張って呉れていた。退院翌日より現場に復帰した。勿論、息子Drの援助を受けてである。

手術をうけ、尚脳梗塞で倒れて適切な治療を受けて元気に成って退院するまで8月22日—9月30日計39日、転院したりハ病院で25日合計64日入院治療を受けた事になる。その間、家内と長男の奥さんが殆ど毎日に来院し、着衣下着を持ち帰って御握りやヨーグルトなどの差し入れをしてくれた。運転免許証を所持している長男の奥さんは入院前の検査や外出時にも送迎をお願いした。家内を始め長男一家孫達にも不自由をかけて世話になり感謝している。

最後に大学病院9階に入院中には主治医始め、看護師長、看護師、パラメディカルスタッフのみなさまに、大変親切に又大事に接して頂き、

ご指導頂き有り難く感謝いたします。今元気に毎日ありがたく元の生活に戻って活躍しています。平成25年の8月22日から10月24日まで約2ヶ月の間に一生に一度の大病に2つも罹患して助けられて元に戻っての日々を送れるのが大変有難く感謝している。

唯大腸の長さが6ぶんの4と少し短くなったので水分の吸収が悪い様で軟便気味となった。裏急後重となると一目散トイレへ走る。時期を失すると実弾発射の危険が伴う。浣腸と内視鏡を数回受けて、肛門は可なり敏感となった。トイレへ駆け込んでボーと大きい空砲を発射する時もある。出てさえ居れば問題はない、元気な証拠だ。

入院中に多くの先生方からお見舞いや励ましを頂戴いたしました。お見舞い本当に有難うございました。アマチュア無線のROARの先輩、MARSの先生方、医師会の先生、電話、自宅への問い合わせとお見舞いのお言葉、又病室まで足を運んで励ましのお言葉を頂戴いたしました。脳梗塞で一時気を失って復帰を心配されていましたが、斯くの様く、もの忘れも無く文章が曲がりなりにも書く事が出来ている様で安堵いたしております。どうぞ今後ともよろしく、ご指導賜りたくお願い申し上げます。

2014、1、27



# クランクアップタワー建設

JH3TCC 家田 勝幸(和歌山県)

2月はじめに FTI のホームページから4段のクランクアップタワーの見積もりを依頼する。しばらくして、担当の阿部氏から電話があり、グーグルアースで住所から場所が特定できないとのこと。

「中学校があって、その西側に保育所があって川があるのが見えますか。」

ありました。

「その川に接して数軒の家と橋が分かりますか。」

見えます。

「橋の方から2軒目の家です。家の北東側に隙間が見えますか。」

見えました。

「その隙間がタワーを建てる予定の場所です。」

わかりました。その道路はクレーン車は通れますか。

「屋根の修理のときにクレーン車が来ていたので多分大丈夫だと思います。」

わかりました。見積もりをします。

というような簡単な会話だけで数日後、メールで見積もりをもらう。ネットでの見積もり依頼のときにアンテナの基礎工事に出てきた残土をどうするかというような項目がありそれは全部ネットでの申し込みの段階で記載しており、残土の処理費用等も見積もりに含まれていた。見積もりどおりで工事を依頼する。その後は長い間、何の連絡が無かった。

4月10日、夕方和歌山県医師会副会長の叙勲の祝賀会があり、副会長は JH3AEF 東條先

生の義兄で、JH3AEF 局も出席しておられ、FTI でタワーを建てることになったことを伝えました。担当は阿部さんですが、その後何の連絡も無いですという、彼は良く知っているから、連絡してあげるということであつたが、その直後に FTI の阿部氏から電話があり、来週に工事に行きますとの連絡をもらう。

4月16日阿部氏ともう一人の二人で来てスコップだけで1.5m×1.5m深さ約4mの穴を手掘りで朝から夕方までかけて掘って夕方にミキサー車が来てタワーのアンカーを埋めて基礎工事を一日かかりで仕上げた。重機を使ったら早いけど余分に大きな穴になってしまうので手掘りでないと余分に開けた分の修復に手間がかかるということであつた。日本中でタワーを立てて廻っているせいか、グーグルアースと車載のナビゲーターだけで何の誘導もなく、時間通りに現場に到着出来るのには驚きを感じた。

6月10日、タワー設置の日。クレーンを設置した4トントラックで、S字状に曲がった道幅3メートル弱の堤防をバックではいってくる。タワー



写真1

の設置場所は道路に面したところで、たまたまその場所で道路が部分的に広がっており、4トントラックを止めても問題ないところであった。タワー上でのアンテナの固定やケーブルの接続等、実に手馴れたものである(写真1)。当日はタワーの設置とアンテナの設置で終了。アンテナは10メガ・2エレ HB9CV、50メガ4エレヤギ、14, 21, 28メガ4エレヤギ、7メガ・ロータリーダイポールである。3.5メガはエレメントが隣の田んぼに大きく張り出してしまうのであきらめる。翌日はケーブルの引き込みと調整で終了。二日間ですべて終了した(写真2)。次は隣の海南市で建てて、その後、三重県で建てて、東京へ帰ると言うことであった。



写真2

30年以上の間、50ワットのリグと、天井裏に上げた7メガ、14メガ、21メガの3本のダイポール(コイルを入れてかなりの短縮率)だけで楽しんでいましたが、北欧と南米以外はほとんど聞こえず、ごくたまに、たまたまとんでもないところとつながったりするのがうれしかったが80カントリーから全く増えず、タワーをあげることにした。とんでもないところとつながるとその余韻で寝つきが悪くなるくらいである。最近のとんでもないところはインド洋のクリスマス島のペディションでFT5ZM(写真3)です。天井裏ダイポールの最

後のDX局になりました。7メガはほとんど国内しか聞こえ無いが、国内だけであれば十分に働いてくれました。21メガはよほどコンディションが良くないと何も聞こえないことが多かったです。14メガは1年がかりで調整したおかげか、実に良く働いてくれました。DXの9割以上はこの14メガのダイポールです。



写真3

これを機に、リグは100ワット機にバージョンアップ(写真4)。タワーがあがって6月21日9時から23日9時までのオールアジアコンテスト(CW)に21メガを聴いてみると、天井裏ダイポールでは聴いたこともないところがたくさん聞こえてきて、実に感激。2日間で、85局とコンタクトできた。コンテストなのでQSLカードはほとんど期待できないが、ニューカントリーのものは一応、QRZ.comで調べてダイレクトで請求してみ



写真4

た。返信用には IRC はだめで、USD だけというのが多い。近くの銀行では1ドル紙幣だけの交換はやってくれず、仕方が無いので関西空港の両替所に行って(車で30分弱)1ドル紙幣だけをゲットできた。それでも上限は1ドル紙幣だけであれば30枚までが上限だそう。全部帰ってきたら一気に10カントリーくらい増えることになる。クランクアップタワーになって最初の DX 局の QSL カードはこのコンテストで期待に反して(?)ゲットできたアンゴラの D3AA のカード(写真5)です。天井裏のダイポールと4段のクランクアップタワーに載せた4エレヤギと比較するのがおかしいが、高さで回転して方向を変えられることの効果の大きさに大感激。なんか、別世界に行ったような気分です。



写真5

アンテナが回るということは便利なようで不便なものです。北へ向ければ南が弱くなる。天井

裏ダイポールではリグのスイッチを入れるだけだったのがコールを聞いてその方向にアンテナを向けるという操作があるので面倒といえは面倒ではあるが、その分よく飛んでくれるのはありがたいです。いろいろやってみて7メガはロータリーダイポールだからか、真北から少し西向きに向けると国内は北も南もほとんど良好に飛んでくれるようです。日本列島はどうもアンテナの両サイドに広がっている様に思われるが、実際に良く飛んでいるようなのでロールコールもその方向に向けることにしました。

6月25日、MARS の7メガのロールコールをワッチ。QRM がひどく、コールサインは聞き取れるが話の内容があまりよく分からず、波を出すのをあきらめる。最後までワッチのみで終わってしまった。これは逆に聞こえすぎるためか??。今までの天井裏のダイポールではかなりのノイズがあったが、アンテナが外にあるためか、それとも高さのせいかは分かりませんがノイズはほとんど邪魔にならなくなりました。

7月30日ロールコールをワッチ。ローカルスキップも無く59から59+で強力に入感。当局の信号も59+のリポートをもらう。ログを見たら約10年ぶりのロールコール参加でした。各局さん、お空でもまたよろしくお願いします。

## 新入会員

JA2MTE 鹿野 和久 先生 (岐阜県本巣郡北方町)

JR0NQU 山本 賢 先生 (新潟県三条市)

JR0QWW 井口 清太郎 先生 (新潟県十日町市)

## 庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

## 2015年 MARS 総会

第39回MARS総会は、『第29回日本医学会総会 2015 関西』のソーシャルイベントとして、2015年4月11日(土)、12日(日)に京都市で開催されます。

医学会総会にご参加の場合は、WEB 申込限定ですが、2014年10月31日までにお申し込みいただきますと早期登録特典がございます。<http://isoukai2015.jp/>

## 編集後記

豪雨による水害や土石流による災害に被災された皆様にお見舞い申し上げます。

我が阪神タイガースも広島東洋カープに抜かれてしまいましたが、広島の選手はホームゲームの際には遊びにも出ずひたすら精進して野球に打ち込もうとしていらっしゃるようです。そう言えば阪神淡路大震災の後にオリックスが優勝しておりますし、最近の出来事では東日本大震災に被災後の昨年に楽天が日本一になりました。

本号をお届けできる頃には、広島が巨人の上に来ている可能性も考えられます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

### 日本医師アマチュア無線連盟会報 (第74号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成26年9月21日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail [info@nishioka.co.jp](mailto:info@nishioka.co.jp)